

平成22年度第2回理事会議事概要

日 時 : 平成22年6月1日(火) 16:00~16:40

場 所 : 森林総合研究所 特別会議室

出席者 :	理事長	鈴木 和 夫
	理事(企画・総務担当)	福 田 隆 政
	理事(研究担当)	大河内 勇
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	平 野 秀 樹
	理事(業務承継円滑化・適正化担当)	町 田 治 之
	理事(森林業務担当)	山 口 正 三
	監事	林 良 興
	監事	龍 久仁人
	監事	滑志田 隆
	総括審議役	青 木 庸 三
	審議役	富 永 茂
	企画部長	平 川 泰 彦
	総務部長	安 樂 勝 彦

1. 開会

2. 報告

本日は、議案がなく報告が3件となっている。

(1 - 1) 会計実地検査の概要について

(安樂総務部長) < 資料 1 - 1 を説明 >

会計検査院第 4 局農林水産検査第 4 課鈴木副長以下 6 名による会計実地検査が 5 月 17 日から 20 日まで東北支所、20 日から 21 日まで本所で行われた。検査内容は通常の検査に加えて 2 つの事案にスポットをあてたもの。その 2 つとは、農林水産技術会議委託事業の非常勤職員賃金に係るものと バイオエタノール製造実証プラントに係るもの。

会計検査の今後の予定は、(農林水産検査第 4 課は) 6 月 10 日 ~ 11 日に北海道支所、7 月 1 日 ~ 2 日に (再び) 本所の検査予定。

(富永審議役) < 資料 1 - 1 を説明 >

(青木総括審議役) < 資料 1 - 1 を説明 >

森林農地整備センターでは、4 月 19 日 ~ 20 日にわたり独法横断的な検査として「融資等業務の状況に関して」の検査を受けた。特に、貸付金における貸倒引当金の計上方法について林道関係、農用地関係の調査が行われた。

(福田理事)

非常勤職員賃金は他の独法でも検査されており、その関連で森林総研に入ったという状況。

(鈴木理事長)

本件報告については理事会として了承された。

資料については、会計検査が引き続き行われている段階であり、非公開とする。

(2 - 1) 実験廃液の事故報告について

(安樂総務部長) < 資料 2 - 1 を説明 >。

5 月 21 日 (金) 11 : 45 頃発生。事故概要は、硫酸を含む廃液 0 . 1 ℓが入っていた廃液タンク (ポリエチレン製、容量 20 ℓ) に、塩酸を含む廃液 0 . 1 ℓ及び硝酸を含む廃液 0 . 5 ℓを入れて蓋を閉じたところ、しばらくして廃液タンクが破裂し、廃液 0 . 7 ℓが研究室内の床面に流出したというもの。

消防車 7 台出動、マスコミにも流れるなど騒ぎとなったところ。

事故当時、研究室内に 3 名在室していたが、この者を含め研究所内でけが人や気分が悪くなった者等の人的被害はなく、研究室内に流出した廃液は、下水等の一般地域への流出はなかった。

事故原因は、廃液を分別貯留する際には塩酸・硫酸・硝酸等の酸廃液については一般的には同一区分とされており、当所のマニュアル (分別貯留区分) においても同一区分としているが、後からタンクに入れた廃液の塩酸と硝酸の濃度が高かったために反応が

起こり、塩素ガス等が発生し、廃液タンク内の圧力が上昇して破裂したものと推測される。

事故再発防止のための対応は、

(1) 当面の対応として、職員に対して、事故発生のお知らせと注意喚起を行ったほか、硝酸については、他の酸廃液との混合はしないよう周知した。また、酸廃液やアルカリ廃液を廃液タンクに入れる場合には、濃度が 10 % 以下になるように水で希釈することとした。

(2) 今後の対応として、廃液の取り扱いに関するマニュアルについて、類似事故等の発生予防のために見直しを行う。改めて、薬品取扱時の注意事項等についての指導を行うこととしている。

(福田理事)

今、説明したとおりであるが、これについては関係方面からも説明を求められている。消防署には既に出向いているが、今度はつくば市役所に説明に参るところである。これまで、大体どこの廃液処理も同じになっているところであるが、酸は酸でまとめてアルカリはアルカリでまとめて処理していた。今後は、硝酸だけは危ないので別途保管・処理し、また、定めていなかった濃度の基準も 10 % 以下と明記し、二重の対策を考えている。また、職員の意識を変えることも含めて指導を徹底していかないといけないと考えている。担当の部署でこういう事案が起きて誠に申し訳ないと思っており、きちんと対処する。

(林監事)

古くなったタンクを使っている場合があると思われるので、確認したら良いのではないかな。

(安樂総務部長)

確認する。

(平野理事)

今後のために「マスコミ対応について」時系列を教えてください。取材を受けたのか。

(安樂総務部長)

最初に取材に入ったのは N H K だが、記者は丁度別の取材で研究所の近くを通過していたらしく、消防車が 7 台も走っていたのでそのまま後に付いて一緒に入って来たようである。

(平野理事)

何で消防車が 7 台も来たのか。また、プレスへの対応はどうしたのか。

(安樂総務部長)

化学薬品に係る事故だったことと初期対応を重視したことからだと思われる。通常の消防車に化学消防車も加わって台数が増えた。

また、新聞社の方へはつくば市がプレスリリースしているので、それを採用したということである。そのため記事は各社同じになっている。つくば市へは当方から事実関係等を整理して事前に伝えている。

(平野理事)

つくば市がプレスリリースするのか。

(安樂総務部長)

管内に研究機関が沢山あるので、つくば市の環境保全課は市民の安全を守る視点で迅速かつ正確に市民への情報提供をしたいということである。

(鈴木理事長)

本件報告については理事会として了承された。

(3 - 1) 独法評価関係の今後の予定等について

(平川企画部長) < 資料 3 - 1 を説明 >

(鈴木理事長)

本件報告については理事会として了承された。

資料については、独法評価結果が公表されるまで非公開とする。

(その他)

(青木総括審議役) < 別添資料 (6 月 25 日の日程) 説明 >

次回の平成 22 年度第 3 回理事会は、6 月 25 日 (金) 開催予定となった。

3 . 閉会